

①がん医療の充実

めざす姿	<p>■最終目標 がん患者が、安全かつ安心な質の高いがん医療をうけることができる。</p> <p>■中間目標 がん診療連携拠点病院等において、安全かつ安心な質の高い医療提供体制及び情報提供体制の充実が図られている。</p>
個別施策	<ul style="list-style-type: none"> がん医療提供体制の充実 がん医療の質の向上 患者目線でのがん診療情報の提供
令和2年度取組	<p>新型コロナウイルス感染症対応のBCPにより部会中止</p> <ol style="list-style-type: none"> ならのがん医療見える化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 県民ががんの治療や病院を選ぶ際に役立つ情報として「がんネットなら」で公表しているがん情報データの更新（別添チラシ） がん診療連携拠点病院機能強化事業 <ul style="list-style-type: none"> 拠点病院5か所、地域がん診療病院1か所の人件費や取組に対する補助 がん診療連携支援病院の指定更新に伴う書類確認（2か所） 近畿ブロック小児がん医療提供体制協議会出席（2回） 県民だより2月号 奈良養生訓にて、がん診療連携拠点病院等を紹介（別紙1） がん患者に対する口腔ケア対策支援事業（BCPにより中止） <p>新4. がん医療機能分化推進事業（別紙2） 県内でのがんゲノム医療の提供に向けて、各診療科横断的にマネジメントできる人材（がん薬物療法専門医）を育成し、県内拠点病院へ専門的な人材を配置すると共に、県内のがんゲノム医療、薬物療法に係る医療施設間の機能分化及びネットワーク化を図り、県内のがん治療水準の向上を図る。 ・奈良県立医科大学がR2.10に新設した「ゲノム医療・腫瘍内科学講座」の整備に係る費用、 専門従事者等の育成に係る事業に対する補助を行う</p>
令和3年度計画	<ol style="list-style-type: none"> ならのがん医療見える化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 県民ががんの治療や病院を選ぶ際に役立つ情報として「がんネットなら」で公表しているがん情報データの更新及び療養ガイドの改訂を行う がん診療連携拠点病院機能強化事業 <ul style="list-style-type: none"> 拠点病院5か所、地域がん診療病院1か所の人件費や取組に対する補助 奈良県地域がん診療連携支援病院の実地調査・指定更新 近畿ブロック小児がん医療提供体制協議会出席（2回） がん患者に対する口腔ケア対策支援事業 <ul style="list-style-type: none"> がん診療連携登録歯科医の資質向上とスキルアップ研修の実施 がん診療連携拠点病院等と地域の歯科医師とのがん患者の口腔管理に関する連絡会の実施 県民むけ講演会の実施 がん医療機能分化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 奈良県立医科大学が設置する「腫瘍内科学講座」の整備に係る費用、専門従事者の育成及びがんゲノム医療従事者（相談員、看護師等）の資質向上に係る事業に対する補助を行う

第3期奈良県がん対策推進計画 目標の進捗状況について

■ 基準値と比較して改善していない
— 新型コロナウイルス感染症対応のBCPにより中止したものの

■ 基準値と比較して改善している

■ 指標項目要検討

2. がん医療
(1)がん医療の充実

分野	分野別目標	指標	現状値 (基準値)	H30年度	R元年度	R2年度	目標値	出典
2 がん医療								
(1)がん医療の充実								
最終目標	安全かつ安心な質の高い医療を受けられている	5年相対生存率	—	80.2% (H23)	80.9% (H24)	82.5% (H25)	増加	がん登録(奈良県)
		医師による診療・治療内容に満足している	82.4% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
	がん患者が納得した治療を選択できている	診断や治療方針について、自分の疑問や意見を十分に医師に伝えられた	70.9% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
		がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返り、自身が納得いく治療を選択することができた	86.0% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
	各療法について、県内で安全で質の高い医療が提供できている	がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返り、自身が納得いく治療を選択することができた	100%	100%	100%	100%	増加	現状報告
		手術・化学療法・放射線クリティカルパスに對し、1年に1回以上リニア分析を行っている拠点病院の割合	15.0回 (H28)	14.0から記載項目なし	14.0から記載項目なし	14.0から記載項目なし	増加	現状報告
		手術・化学療法・放射線クリティカルパスに對し、1年に1回以上リニア分析を行っている拠点病院の割合	80%	80%	80%	80%	増加	がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計報告書
		県内のがん患者が県内がん診療連携拠点病院に受診している割合	70.9% (H25)	65.7% (H27)	67.2% (H28)	68.4% (H29)	増加	がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計報告書
	がん患者が必要な時にサポートを受けられるチーム医療体制が整備され、医療従事者間の連携が強化されている	がん患者が必要な時にサポートを受けられるチーム医療体制が整備され、医療従事者間の連携が強化されている	65.9% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
		がん治療を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、患者が正しい情報を提供している	88.4% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
がん患者やその家族に必要な情報を提供できている		29.4% (H29)	—	—	—	減少	ならのがんに関する患者意識調査	
がん医療提供体制の充実	がん診療体制や治療状況についての情報が不十分である	22.9% (H29)	—	—	—	減少	ならのがんに関する患者意識調査	
	がん化学療法看護認定看護師が配置されている拠点病院・診療病院・支援病院の割合	88.9% (H28)	77.8% (H30)	86.7% (R1)	—	増加	現状報告	
	がん専門薬剤師またはがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院の割合	80.0% (H28)	80.0% (H30)	80.0% (R1)	—	増加		
	がん放射線療法看護認定看護師が配置されている拠点病院・支援病院の割合	57.1% (H28)	57.1% (H30)	42.9% (R1)	—	増加		
	拠点病院の病理診断医師数	20人 (H28)	19人 (H30)	18人 (R1)	—	増加		
悪性新生物手術の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	34.1 (H28)	—	33.8 (H29)	—	増加			
がん医療の質の向上	放射線治療(体外照射+腔内・組織内照射)の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	243.2 (H28)	—	244.3 (H29)	—	増加	医療施設調査(厚生労働省)	
	外来化学療法の実施件数(人口10万人あたりの実施件数(1ヶ月分))	22.3 (H28)	—	13.9 (H29)	—	増加	医療施設調査(厚生労働省)	
	実地調査の結果について、がん診療連携協議会等で情報共有	実施済み (H29)	実施済み (H30)	実施済み (R1)	—	継続実施	—	
	拠点病院等での医療安全管理部門等での検討会の開催回数	15.9回 (H28)	14.0から記載項目なし	14.0から記載項目なし	—	増加	現状報告	
	医療の質の評価方法について検討結果の公表	—	がん診療見える化推進事業実施結果の公表	がん診療見える化推進事業実施結果の公表	—	3年以内に公表	—	
	診療機能・診療実績等の情報提供内容、周知方法等の検討結果の公表	—	施設間で公表 (R10)	施設間で公表 (R1)	—	2年以内に公表	—	
	病院等での療養ガイド等の配布数	2,900部 (H25～29)	10,000部程度 (H29策)	9,000部 (H30～R1)	9,000部 (H30～R2)	増加	奈良県調べ	
患者目線でのがん診療情報の提供	「がんネットなら」の認知度、アクセス数	11.3% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査	
	担当医からセカンドオピニオンの説明を受けた割合	27.1% (H29)	—	—	—	増加		
	医師から不妊への影響について説明を受けた割合(40歳未満)	45.5% (H29)	—	—	—	増加		

②がんと診断された時からの緩和ケア

めざす姿	<p>■最終目標 がん患者やその家族が、痛みやつらさが軽減され、療養生活に満足している。</p> <p>■中間目標 がん患者やその家族ががんと診断された時から緩和ケアをうけることのできる体制整備が進んでいる。</p>
個別施策	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア提供体制の充実 緩和ケアの理解促進と情報提供の充実
令和2年度取組	<p>新型コロナウイルス感染症対応のBCPにより部会中止</p> <p>1. 地域連携・緩和ケア普及推進事業</p> <p>①緩和ケア研修会の実施促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より、緩和ケア研修にe-learning導入 緩和ケア研修会を奈良県地域がん診療連携支援病院（国保中央病院）に委託し実施 拠点病院の緩和ケア研修会のとりまとめ（別紙3） 緩和ケア研修の開催予定、研修会修了者名簿を「がんネットなら」で掲載 <p>②地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施（BCPにより中止）</p>
令和3年度計画	<p>1. 地域連携・緩和ケア普及推進事業</p> <p>①緩和ケア研修会の実施促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修会を奈良県地域がん診療連携支援病院（国保中央病院）に委託し実施 拠点病院の緩和ケア研修会のとりまとめ 緩和ケア研修の開催予定、研修会修了者名簿を「がんネットなら」で掲載 <p>②地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施（地域連携・再掲）</p>

第3期奈良県がん対策推進計画 目標の進捗状況について

■ 基準値と比較して改善していない
— 新型コロナウイルス感染症対応のBCPにより中止したもの
■ 基準値と比較して改善している

2. がん医療
(2)がんと診断された時からの緩和ケア

分野	分野別目標	指標	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値	出典
2. がん医療								
(2)がんと診断された時からの緩和ケア								
最終目標	身体的、精神的、社会的苦痛が緩和されている	からの苦痛に対する緩和ケアの早い提供 症状改善の状況	88.9% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
		気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供 症状改善の状況	86.0% 62.0% (H29)	—	—	—	増加	
中間目標	質の担保された緩和ケア提供体制 (緩和ケア外来、チーム医療)が整備されている	緩和ケアチームにおける年間新規診療症例数(拠点病院)	846人 (H29)	748人 (H29)	769人 (H30)	—	増加	現況報告
		緩和ケア外来患者の年間新規診療症例数(拠点、支援病院)	192人 (H29)	228人 (H29)	235人 (H30)	—	増加	
施策目標	緩和ケアの提供体制の充実	がん患者の緩和ケアについての正しい理解が進んでいる	40.5% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
		緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数(拠点病院)	1,834人 (H29)	2,044人 (H29)	2,326人 (H30)	—	増加	現況報告
		緩和ケア外来患者の年間新規診療症例数(拠点、支援病院)	192人 (H29)	228人 (H29)	235人 (H30)	—	増加	現況報告
		緩和ケアチーム研修会の参加医療機関数	8施設 (H29)	8施設 (H30)	7施設 (R1)	—	増加	奈良医大調べ
		緩和ケア提供体制に関する評価・分析の公表(年1回)	—	未実施	未実施	未実施	実施	—
		がん患者指導管理料を算定している医療機関数	17施設 (H29.12.1)	18施設 (H31.3.1)	18施設 (R2.2.1)	20施設 (R2.2.1)	増加	厚生労働省近畿厚生局
		がん患者指導管理料を算定している医療機関数	16施設 (H29.12.1)	17施設 (H31.3.1)	17施設 (R2.2.1)	19施設 (R2.2.1)	増加	現況報告
		拠点病院における緩和ケア研修会受講率(医師) (拠点病院)	91.4% (H29.9.1)	94.6% (H30.9.1)	93.9% (R1.9.1)	—	90%以上	現況報告
		看護師等の緩和ケア研修会(ELNEO-J)の受講者数	—	未実施	30人 (R1)	14人 (R2)	増加	奈良医大調べ
		緩和ケアフォローアップ研修(アドバンス研修)受講者数	—	1回 (H30)	未実施	未実施	増加	奈良医大調べ
緩和ケアの理解促進と情報提供の充実	「がんネットなら」の認知度、アクセス数		11.3% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
		拠点病院等における公開講座の開催回数	4回 (H29)	5回 (H30)	6回 (R1)	—	増加	奈良医大調べ

③地域連携

めざす姿	<p>■最終目標 がん患者が、自分の望む場所で納得のいく療養生活を送ることができる。</p> <p>■中間目標 診断、治療、在宅、看取りまで、切れ目のない医療提供体制の整備が進んでいる。</p>
個別施策	<ul style="list-style-type: none"> 拠点病院等の地域連携体制の充実 在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実 がん患者や県民への情報提供と普及啓発
令和2年度取組	<p>新型コロナウイルス感染症対応のBCPにより部会中止</p> <p>1. 地域連携・緩和ケア普及推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施（BCPにより中止） <p>2. 県の在宅医療、包括ケアの取組</p>
令和3年度計画	<p>1. 地域連携・緩和ケア普及推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施 県医師会と連携して実施 <p>2. 県の在宅医療、包括ケアの取組</p>

第3期奈良県がん対策推進計画 目標の進捗状況について

■ 基準値と比較して改善していない — 新型コロナウイルス感染症対応のBCPにより中止したもの
 ■ 基準値と比較して改善している
 ■ 指標項目要検討

2. がん医療
(3) 地域連携

分野別目標		指標	現状値 (基準値)	H30年度	R元年度	R2年度	目標値	出典
分野	目標							
(3) 地域連携								
最終目標	住み慣れた場所で、療養生活を送ることができる	がん患者の在宅死亡割合	17.5% (H27)	18.7% (H28)	20.1% (H29)	20.1% (H30)	増加	人口動態統計
	居住する地域にかかわらず、質の高い医療を受けられる	在宅緩和ケアについて、希望し、実現可能	40.2% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
中間目標	がん診療連携拠点病院等とかかりつけ医・在宅とのスムーズな医療連携ネットワーク体制が整備されている	病院から診療所・在宅医療(看護も含む)へ移った際、病院での情報(診療方針)が診療所、訪問看護ステーションに円滑に伝わった	20.7% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
		地域連携クリティカルパス適用患者件数	137件 (H28)	122件 (H29)	145件 (H30)	156件 (R)	増加	奈良県調べ
		在宅療養支援診療所数	191施設 (H29.0.1)	162施設 (H31.3.1)	165施設 (R2.2.1)	168施設 (R3.2.1)	増加	厚生労働省近畿厚生局
	緩和ケアに関してがん診療連携拠点病院等と地域で連携体制が整備されている	がん診療連携拠点病院における緩和ケアに関する地域多職種カンファレンスの開催回数(H30～他施設合同会議)	18回 (H28)	17回 (H29)	18回 (H30)	—	増加	現況報告
	地域の医療機関からの年間新規紹介患者数(拠点、支援病院)	32人 (H28)	42人 (H29)	49人 (H30)	—	増加	—	
	がん患者が地域連携や在宅医療について、必要な情報提供を受けている	自宅での療養生活についての情報が不十分である	39.9% (H28)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査
施策目標	拠点病院等の地域連携体制の充実	地域連携バスの活用状況の把握・公表	137件 (H28)	122件 (H29)	145件 (H30)	156件 (R)	増加	奈良県調べ
		緩和ケアバスを整備している拠点病院数	1施設 (H28)	1施設 (H29)	H30から 項目削除	—	増加	—
		がん診療連携拠点病院における緩和ケアに関する地域多職種カンファレンスの開催回数(H30～他施設合同会議)	18回 (H28)	17回 (H29)	18回 (H30)	—	増加	現況報告
	在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実	在宅医療機能の公表(がん患者対応可能な診療所、訪問看護ステーション、薬局等の施設数)	実施済み (H28)	調査実施 (H30)	実施済み (R)	—	継続実施	現況報告、奈良県調べ
		在宅緩和ケア研修会の参加者数	80人 (H28)	57人 (H29)	42人 (H30)	—	増加	奈良県調べ
		医療・介護従事者への緩和ケア研修会の実施回数、参加者数(拠点病院)	11回/449人 (H28)	10回/382人 (H29)	10回/322人 (H30)	10回/313人 (R)	増加	拠点病院機能強化事業実績報告
がん患者や県民への情報提供と普及啓発	地域連携バスの認知度	14.5% (H29)	—	—	—	増加	—	
	「がんネットなら」の認知度、アクセス数	11.3% (H29)	—	—	—	増加	ならのがんに関する患者意識調査	